

入 選

「水の惑星」であり続けるために

水戸市立笠原中学校

一年 徐 莉 亜

地球は、「水の惑星」と呼ばれている。実際、水・つまり海洋と陸地の割合は七対三であり、地球のほとんどが水でできている。

私は泳ぐことが好きで、小学生まで水泳教室に通い、中学生になるとずっと前から入ると決めていた水泳部に所属して、泳力を日々きたえている。そんな私が水に興味を持ったのは、小学校六年生のときに水泳教室で起きた出来事がきっかけだった。

それは、その日の水泳教室が終わった後、シャワーを浴びて着替えようとしていたときのことである。そこでは「最後にシャワーを使い終わった人は、必ず水を止める」というルールがあったのだが、最後に使った私はそれを止めるのを忘れてしまい、シャ

ワーの水が出しっぱなしになっている状態だった。すると、水泳教室の先生が残念そうに水を止めている姿が見えて、私は思わず目を見開いた。怒られたりはしなかったものの、「水なんていくらでもあるじゃないか」と思っていた私は、どうしてそんなに水が大切なのか気がなって仕方が無かったのだ。そこで、私は水のことについて調べることにした。

すると、私達が普段当たり前のように飲んでいる水道水は、全体の九割ほど、つまりほとんどの国が安全に飲むことのできないということを知った。日本では誰もが飲んだことがあると言ってもいい水道水だが、それは日本の水道水の質や安全性が高いのであって、「水道水は安全に飲めない」が当たり前の国が多いそうだ。また、シャワーの水を浴びる際にも、海外のシャワーに多い「硬水」の出るものを使うと、髪や肌が乾燥してしまう人も少なくないという。世界ではそんな問題があるだなんて知りもしなかった私は、あの先生のように、どうして人がきれいな水を大切に行っているのかがよく理解できたような気がして、とたんに自分はずかしくなっ

た。そして、それと同時に、毎日本に困ることもなく、安全に生活ができている私はどんなに幸せなんだろう、とも感じた。

この地球は、「水の惑星」と呼ばれながらも、安全に水を使うことができない、水が足りないと感じる人がたくさんいる。しかし、そんな人たちを助けるために、私達にもできることがたくさんあることも知ってほしい。例えば、川や海にごみを捨てないようにしたり、食べ残しを無くしたりするだけで、水はもっときれいになる。食器洗いのにきに使う洗剤だって、少しでも量を減らせばそれに貢献できる。きっと私にもできることもたくさんあるだろう。

地球に住む一員として私にできることはなんだろう、と考えてみる。具体的な活動もそうだが、もっともっと水について知っていくことだと、私は考えている。そして、これを機に、水についてたくさん調べてみたいと思う。

この思いが、世界の人にも届けられたらいいな。

地球が、いつまでも美しい「水の惑星」であり続

けるために。